WIDE COLOUR

ハインケル

He100

☆特集☆

ADCOM競技会ウイリアム・テル'76

パイロット・レポート　A-10攻撃機

日本海軍の特殊機MXシリーズの開発

'77 2

FEBRUARY

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

ウイリアム・テル'76に参加したファントム

PHANTOMs PERTICIPATING IN WILLIAM TELL 1976

アイスランドのケフラビク海軍基地駐留の防空軍団（ADCOM）第57戦闘迎撃飛行隊（57FIS）所属のF-4C。

F-4 from 57 FIS, ADCOM, Keflavik, Iceland

アラスカ州エルメンドルフ空軍基地のアラスカ空軍第43戦術戦闘飛行隊（43TFS）所属のF-4E
F-4E from 43 TFS, Elmendorf AFB, Alaska

西ドイツのハーン空軍基地にある在欧米空軍（USAFE）第496TFS所属のF-4E。
F-4E from 496 TFS, USAFE, Hahn AB, Germany

このページはノースカロライナ州スイモア・ジョンソン空軍基地の第4戦術戦闘連隊（4TFW）所属のF-4E，同部隊は今回F-4によるカテゴリーIIで優勝した。
F-4E from 4 TFW, Seymour Johnson AFB, North Carolina. The unit won the prize in the F-4 Category-II.

上は496TFSのF-4E，中および下は57FISのF-4C。
(Top) F-4E of 496 TFS (Mid. &bottom) F-4C of 57 FIS

このページは43TFSのF-4E。上の機体は空気取入口ベーンに、ベトナム戦争におけるミグの撃墜マークを描いてある。
F-4E of 43 TFS. Note the MiG victory marking.

バックファイアとMIG-25 BACKFIRE and MiG-25

ソ連の最新鋭戦略爆撃機バックファイア。
（本文59ページ参照）

Soviet Strategic Bomber BACKFIRE
The aircraft is currently the subject of some controversy among western sources. Some 80 planes are reportedly operational with the Soviet Air Forces. Very rare in color.

去る9月6日に函館空港に強行着陸した直後のMIG-25。垂直尾翼の間にあるドラグシュート格納部のカバーが大きく開いている。
（撮影：立原征夫）

MiG-25 just after it landed at Hakodate Airport, September 6, 1976, (photo by Ikuo Tachihara).

カラー特集 米海軍／海兵隊機
AMERICAN NAVY/MARINE AIRCRAFT IN COLOR

(Photo by [illegible])

このページと右ページは、第194戦闘飛行隊（VF-194）所属のF-4J。写真のようにグレイ3色による迷彩塗装をしており、右ページの写真では機体上面のパターンがよくわかる。

(Photo by [illegible])

(This page & right page) F-4J of VF-194. Interesting is the 3-tone gray camouflage.

(Photo by M.F.Jennings)

(Photo by M.F.Jennings)

(Photo by M.F.Jennings)

(Photo by M.F.Hemming)

(Photo by M.F.Hemming)

▲空母キティホークに搭載されている第7偵察攻撃飛行隊（RVAH-7）所属のFR-5C。
◀第124戦闘飛行隊（VF-124）所属のF-14A。
▼第128攻撃飛行隊（VA-128）所属のA-6。

▲RA-5C of RVAH-7, USS Kitty Hawk

◀F-14A of VF-124

▼A-6 of VA-128

［右ページ上］アメリカ建国200年記念の塗装をして飛行する第4実験開発飛行隊（VX-4）所属のF-4。
［右ページ下］空母コーラルシーに搭載されている第22攻撃飛行隊(VA-22)所属のA-7E。

(Right page) F-4 of VX-4, with bicentennial painting, in flight.
(Right page, down) A-7E of VA-22 aboard USS Coral Sea

(Photo by M.F.Hemming)

(Photo by R.P.Morrison)

(Photo by R.P.Morrison)

空母コーラルシーに搭載されている第191戦闘飛行隊（VF-191）の隊長機F-4J。
F-4J, VF-191 Commander's plane, USS Coral Sea.
(Photo by R.P.Morrison)

(Photo by R.P.Morrison)
胴体に建国200年記念のマーキングをしたVF-191のF-4J。
F-4J of VF-191 in bicentennial markings on the body.

(Photo by R.P.Morrison)

(Photo by R.P.Morrison)

(Photo by R.P.Morrison)

F-14による新部隊，空母キティーホーク搭載第114戦闘飛行隊（VF-114）所属のF-14A。
F-14A of VF-114, USS Kitty Hawk

(Photo by R.P.Morrison)

これも新部隊VF-213所属のF-14A。
F-14A of VF-213

米海兵隊第14司令部整備中隊〔H&MS-14〕所属のTA-4F。
TA-4F of H & MS-14, US Marines.

(Photo by R.P.Morrison)

第24訓練飛行隊（VT-24）のTA-4J。この機体は第3訓練連隊の司令官機。
TA-4J of VT-24. This is the Commander's plane of the 3rd Wing.

タイ空軍の航空機 THAI AF AIRCRAFT

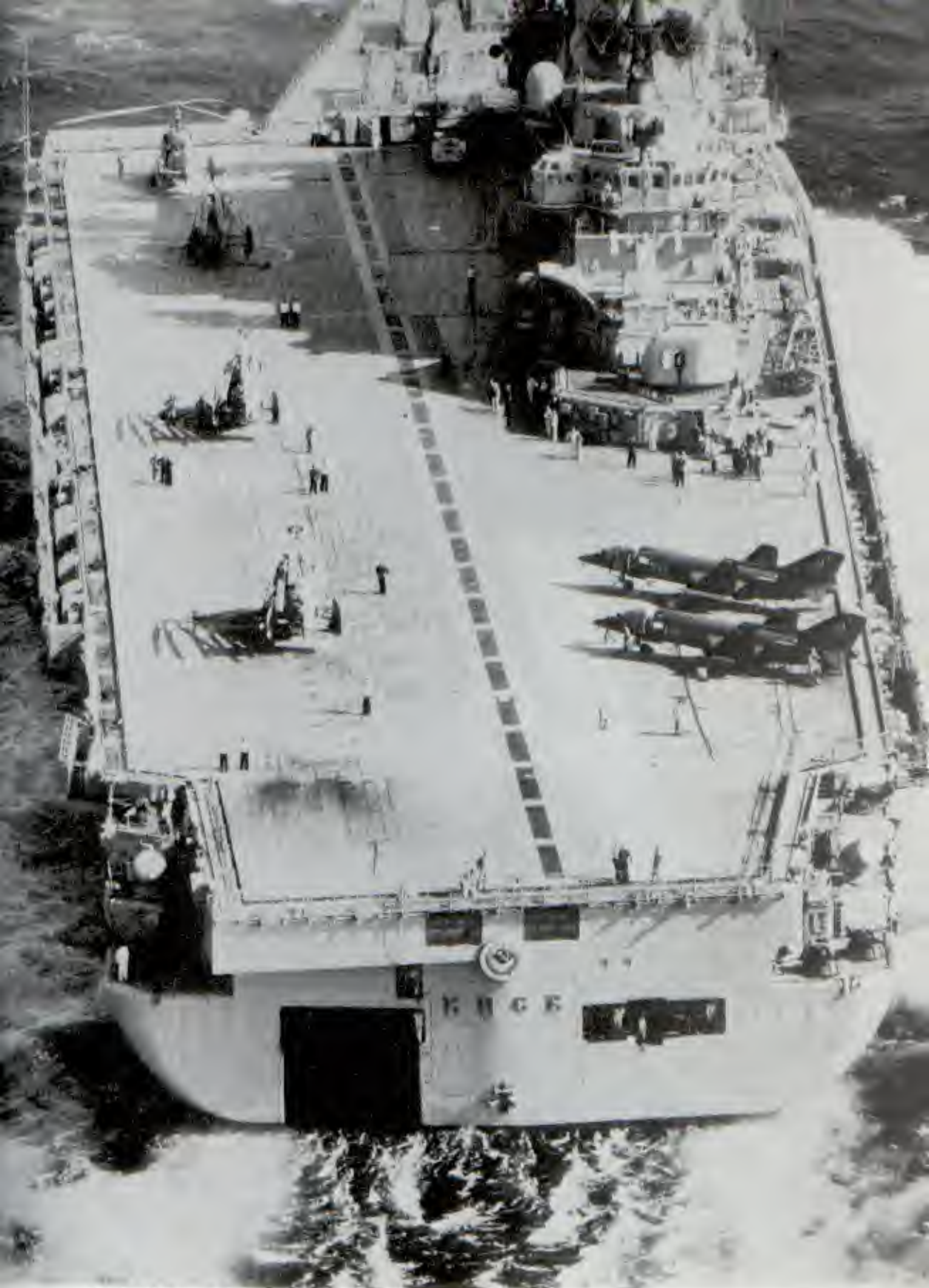
(Photo by AAPP)

ミニガンを装備したAC-47ガンシップ。
AC-47 gunship

訓練用軽練習機。
Trainer

(Photo by AAPP)

AT-28D攻撃機
AT-28D attack aircraft

(Photo by AAPP)

(Photo by RAF)

写真で見る
ソ連の最新鋭空母 “キエフ”

USSR MODERN CARRIER KIEV

前ページは，マルタに駐留する英空軍第203スコードロンのニムロッド機が撮影したもので，飛行甲板に新型V／STOL機Yak-36とKa-25対潜ヘリコプタが搭載されている。このページと次ページは飛行準備中のYak-36。ズングリした胴体に小さな翼など同機の形状，飛行甲板の状態などがよくわかる。

(Pre. page) This view from the stern, taken by an RAF Nimrod of No. 203 Sqdn.based in Malta, shows on deck two of the new Soviet V/STOL Yak-36 fighters and four Ka-25 anti-sub helicopters.

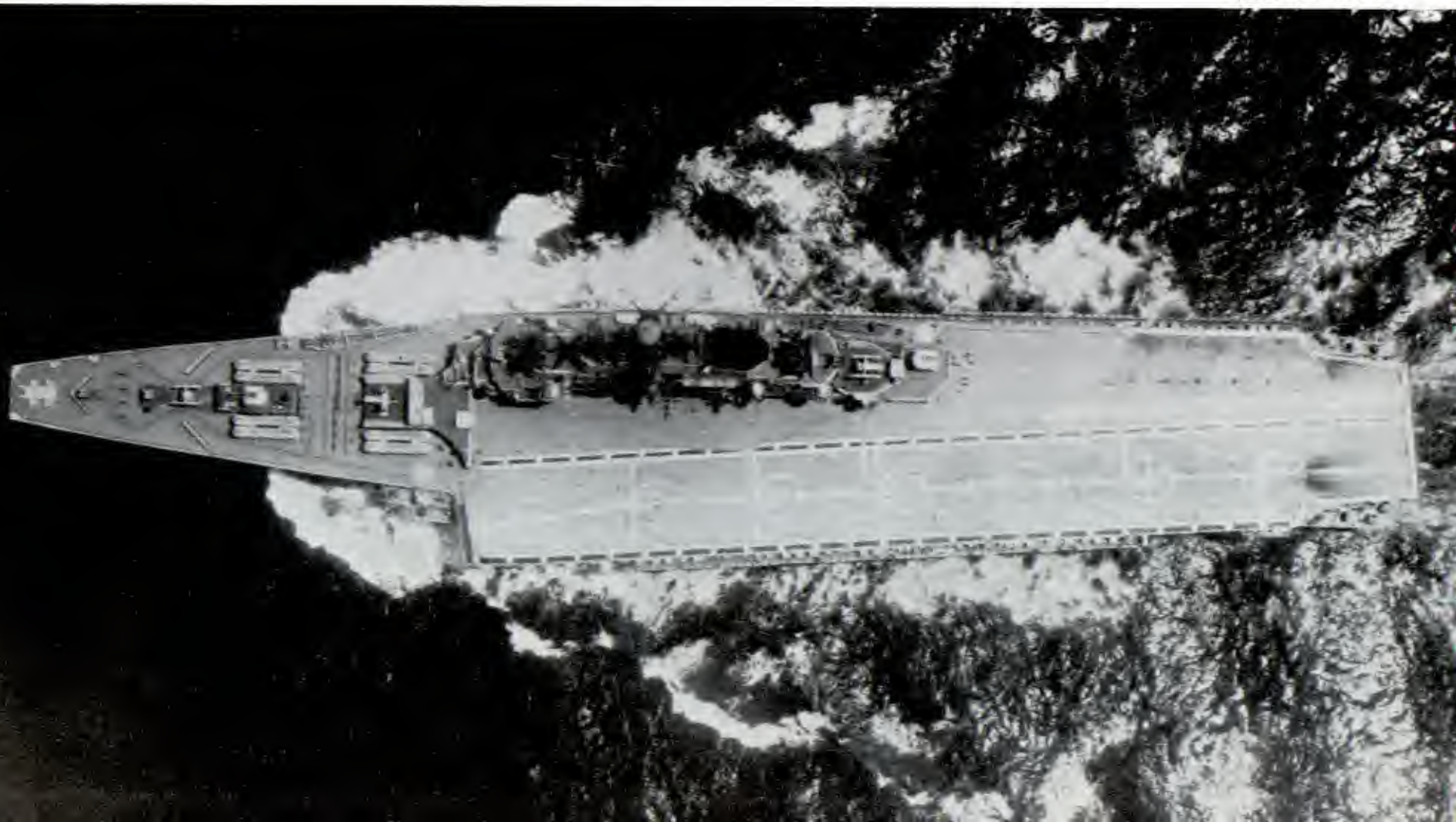
(Photo by U. S. NAVY)

(Photo by U. S. NAVY)

(Photo by U.S.NAVY)

前ページは航行中の"キエフ"で、側面形がよくわかる。飛行甲板に見えるのはKa-25対潜ヘリコプタ。このページはほぼ真上から見たもので，艦首と艦橋に集中しているミサイル発射機やレーダー類など平面形がよくわかる。斜めの飛行甲板に丸く描かれているのは，対潜ヘリコプタの発着艦位置。また、飛行甲板後部の黒く見える所は，V/STOL機の発進位置と思われる。

(Pre. page) An aerial view of the KIEV underway. (This page) An overhead view of the KIEV underway. Missile launchers and radar equipment are gathered on the bow and bridge. Circles show the point from where helicopters take off, and the black part on the aft-flight board seems to be the place where V/STOL fighters hit the deck.

(Photo by U.S. NAVY)

ニムロッド対潜哨戒機

RAF NIMROD MARITIME PATROL AIRCRAFT

ホーカーシドレー社でテスト飛行中の，イギリス空軍の新型ニムロッド対潜哨戒機。写真のように機首と尾部にレーダーバルジが取付けられており，本機はAEWS（早期警戒システム）機としては，理想的な設計であると関係者は述べている。

A new version of RAF Nimrod maritime patrol aircraft, bulging with radar at the nose and tail, is being flight-tested by Hawker Siddeley in England.
The AEWS aircraft is an ideal flying radar station, the company claim.

グラマンE-2Cホークアイ

Grumman E-2C Hawkeye

空母ジョンFケネディに搭載されている，第125早期警戒飛行隊（VAW-125）所属のE-2C。C型はB型までに使用していたAPS-96索敵レーダーがAPS-111に変更されていて，索敵能力が向上している。外形では機首と胴体上部の形状が少し変っている。

E-2C of VAW-125, USS CVA 67, in flight. In the C version, the APS-96 radar is installed replacing the APS-111 for the B version. The nose and upper portion of the fuselage are slightly different from the B version.

F-5／T-38生産3,000号機

The 3,000th Aircraft of F-5/T-38 Series.

ノースロップのF-5／T-38シリーズの生産第3,000号機が，このほど同社のパームデール工場で完成した。また，同シリーズの生産は計画通り，きわめて順調に進んでいる。

The 3,000th aircraft in Northrop's series of F-5/T-38 fighters and trainers exits from the final assembly plant at Palmdale, Calif. Every aircraft in series built by Northrop has been delivered on schedule.

ウイリアム・テル'76参加機

① F-4ファントムII

（本文84ページ参照）

去る10月31日より3週間にわたり、米フロリダ州にあるチンダル空軍基地において、米空軍宇宙防衛航空軍団（ADCOM）防空戦闘機部隊による競技会"ウイリアム・テル"が行なわれた。今回の参加部隊は、F-101が3、F-106が4、F-4が4の計11中隊で、このうち今月紹介するF-4がこの競技会に参加したのは初めてであり、また戦術航空軍団（TAC）が参加したのも初めてであった。

To the "William Tell '76" weapons meet held at Tyndall AFB, Fla. for three weeks starting October 31, 1976, a total of 11 squadrons participated: three squadrons of F-101, four of F-106 and four of F-4. The F-4 joined the meet for the first time.

WILLIAM TELL '76 F-4 PHANTOM II

胴体下面にスパローAAMを装備して競技に向うF-4C。
胴体側面には建国200年記念のマークがはられている。

前ページとこのページおよび右ページは、アイスランドのケフラビク海軍航空基地に駐留する防空軍団（ADCOM）第57戦闘迎撃飛行隊（57FIS）所属のF-4C。同飛行隊はADCOM唯一のF-4部隊である。機体は垂直尾翼とエレベーターが黒白のチェックになっていて、翼下増槽にリンゴと矢が描かれている。

F-4C from 57 FIS of Keflavik, Iceland. The rudder and elevator are painted in black & white checkers and auxiliary tanks under the the wing in William Tell's "flying apple".

競技を終えて着陸したF-4C。左翼にサイドワインダーAAMを装備している。
F-4C. Sidewinder AAM is seen.

F-4C, with a Sparrow AAM under the body, is ready to start for competition. Bycentennial markings on the fuselage side is impressive.

このページと右ページは、アラスカ州エルメンドルフ空軍基地のアラスカ空軍第43戦術戦闘飛行隊（43TFS）所属のF-4E。同飛行隊の参加機にはシャークティースが描かれており、右ページ上の写真のように空気取入口カバーにもファントムの絵が描いてある。

F-4E from 43 TFS of Elmendorf AFB, Alaska. The shark-tooth painted Phantom has a drawing of a " phantom" on the airintake.

ファントムのかっこうをした同飛行隊のバレンチノ軍
とファイアビーII超音速ドローン。

Standing beside the Firebee II drone is
"Phantom" of Elmendorf AFB, as disguis
by SMSgt Robert L. Valentino.

競技に向う43TFSのF-4E。胴体下面にスパロ－AAMを装備している。

F-4E of 43 TFS, also equipped with a Sparrow AAM under the fuselage.

右翼パイロンにサイドワインダーAAMを装備して競技に向う496TFSのF-4E。
F-4E of 496 TFS with a Sidewinder AAM on the right wing pylon.

このページは西ドイツのハーン空軍基地にある在欧米空軍（USAFE）第496TFS所属のF-4E。

•このページはノースカロライナ州スイモア・ジョンソン空軍基地の第4戦術戦闘連隊（4 TFW）所属のF-4E。今回のウイリアム・テルのカテゴリーII（F-4）では、この4 TFWが合計18,700点をあげて優勝した。

The 4th TFW from Seymour Johnson AFB, N.C. won the F-4E category with 18,700marks. Their "Fourth But First" aim was achieved.

ミラマー基地のオープンハウスを見る

VISIT TO OPEN HOUSE AT MIRAMAR NAS (Photos by F.B.Mormillo)

去る10月23日、米カリフォルニア州にあるミラマー海軍航空基地のオープンハウスが行なわれ、アクロバットチーム"ブルーエンゼルス"のショーをはじめ、各種航空機のデモ飛行などが行なわれた。ここでは当日飛行した主な航空機を紹介することにしよう。このページ上はF-14の新部隊第-114戦闘飛行隊(VF-114)所属のF-14A。下は第124戦闘飛行隊(VF-124)所属のF-14A。

During the show on October 23, 1976, VF-124 and VF-114 (a relatively new F-14 unit) both flew an F-14. photographed in this page are the F-14A of VF-114 and VF-124.

このページ上はRF-8Gと編隊飛行する、
"TOP Gun"のTA-4J。下は離陸するRF-8G。

(Up) RF-8G flying with TA-4J of "Top Gun."
(Below) RF-8G.

第110早期警戒偵察飛行隊（RVAW-110）所属のE-2B。E-2B of RVAW-110

着陸する第121戦闘飛行隊（VF-121）所属のF-4J。F-4J of VF-121

迷彩塗装をした、"Top Gun School" 所属のTA-4J。
Camouflaged TA-4J of "Top Gun School"

このページ上は、第3混成飛行隊(VC-3)所属のDC-130ドローン発射母機。下は翼下にガン射撃訓練用のダートターゲットを装備したVC-7所属のA-4F。

DC-130 done-launching aircraft from VC-3. Below is the A-4F of VC-7, equipped with a dart target for use in gun shoot training.

このページと右ページは華麗な飛行を見せる米海軍のアクロバットチーム "Blue Angels"。

"Blue Angels" in show flight.

Blue Angels
6
5

PHOTO NEWS

エアバス・インダストリーは去る11月10日、インドの国営航空会社インデアン・エアラインズ向けエアバスA300B2の一番機を、ツルーズの最終組立工場で同社に引渡した。

ヒュース・エアウエスト航空は、このほどカルガリ～ラスベガス～ロスアンゼルス、エドモントン～ラスベガス～ロスアンゼルス間の定期路線にアドバンスト727-200を就航させた。

アラスカ・インターナショナル・エアは、航空貨物輸送増大に対処するため、同社保有の民間型L 100二機をL 100-30型（胴体延長型）に改造中であったが、このほどロッキード・ジョージア社で完成した。

グラマン・アメリカン社はこのほど、1980年から生産を計画しているビジネス・ジェット機ガルフストリームIIIの動力として、ロールスロイスのスペイ・エンジンを採用すると発表した。ガルフストリームIIIはロールスロイスのエンジンを装備した同社のビジネス機としては、ガルフストリームI、IIについで3番目である。

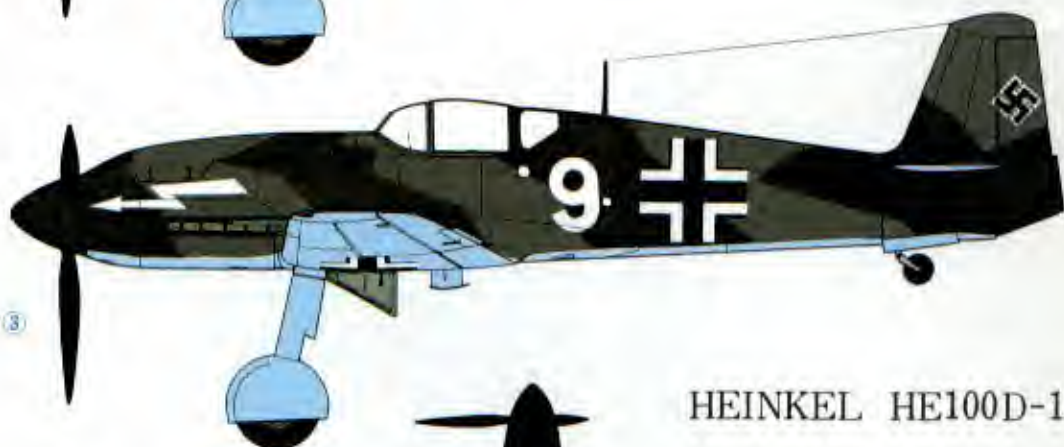
イギリス空軍で使用する、4人乗り新型軍用練習機“ブルドッグ”。

キプロス航空は去る10月、ＢＡＣ-111-500旅客機２機を発注したが、同社では、早くもリースされたＢＡＣ-111が東北中海沿岸地区を結ぶローカル線を中心に運航を開始した。

スナップだより

空中給油用ホースリールが引きこまなくなり、岩国基地に緊急着陸したVMGR-152所属のKC-130F（岩国市　繁本翔雄）。

右翼下に小型訓練弾用ディスペンサーを装備した、T-2特別仕様機（一宮市　穂科岳昭）。

翼下に5インチロケット弾ポッド、胴体下面にカメラポッドを装備したT-2特別仕様機（一宮市　穂科岳昭）。

①〜④
架空部隊マークをつけた
He100D-1

He 100D-1 fighters, used in propaganda photographs

© K. Hachimoto

ライトニングの写真偵察型F-4とF-5

LOCKHEED F-4 & F-5
RECONNAISSANCE VERSION OF P-38

↑↓ F-4 of 90th Photographic Reconnaissance Wing

双胴の快速戦闘機P-38ライトニングのうち約1,400機がカメラを積んで偵察機に改造された。カメラを積んだ米陸軍戦闘機には，ムスタング改造のF-6もあるが，P-38改造機のほうが，この種の戦術偵察任務には適していたという。

ここの3枚は，大戦中にイタリア方面の戦線で活躍した第90写真偵察連隊（90th PRW）所属のF-4。F-4はP-38EにK-17カメラを4個積んで改造したもので，1942年の3月ころから部隊に引渡されている。90th PRWは，第12および第15空軍のF-4部隊を混成して編成したもので，地中海方面で敵拠点の偵察に活躍している。ここの写真はいずれもイタリアで撮影したもの。

2次大戦機を装備した

“米南部連合空軍”

このページと次ページはメッサーシュミットBf109。同機は昨年（1976年）10月9日のショーの最中，ワーリー・ウィティングトン大佐の操縦でローパスの際にプロペラをランウェーに接触して破損，ただちに着陸しようとしたが，あやまって主脚柱を折り，現在修理中で，約6カ月後に飛行可能の予定である。この折損事故は同日午後4時ごろのハプニングで，ショーのナレーター，エディ・メイ大佐が，「我々のこのFlying-machineをKeep'em Flying ！」と絶叫し，修理費は最低10,000ドル必要と観客にうったえたところ，小供たちはアイスクリームやコークを買うのをやめて，10セント，1ドルと献金，大人たちは5ドル，10ドル，100ドルとポケットマネーを出し合って，最終日までに約3,000ドルあまりが修理費の一助にと集まった。

（Text & Pictures by Y. "Jake" Yamada）

ENJOY THE CONFEDERATE AIR FORCE MUSEUM-THE NOSTALGIA OF AN ERA

先月号につづいて，テキサス州ハーリンゲンの"南部連合空軍"（コンフェダレイト・エァフォース）の各機。ここのメッサーシュミットBf109は，映画会社が1968年に製作した「空軍大戦略」の撮影用にスペイン空軍よりリース，のちにC.A.F.が5機購入したもの。同映画に出演したパイロットもC.A.F.のメンバーである。

↑ F-4 of 90th PRW parked in a revetment at an air base somewhere in North Africa.

〔上〕これは北アフリカの基地で撮影した第90偵察連隊のF-4。機首のカメラ窓がよくわかる。P-38F 改造のF-4Aを含めて、F-4は全部で119機が実戦部隊に引渡された

〔下〕掩体から誘導されるF-5偵察機。インド方面に派遣された第9写真偵察中隊（9th PRS）の所属機、"ミス・バージニアE" 号である。F-5はP-38G，H，J，Lの写真偵察型で，F-5A，B（F-5Aのインタークーラー付き），C，E，F，Gなどと呼ばれている。

⬇ F-5 of 9th Photographic Reconnaissance Squadron taxing out of revetment area at an Air Base somewhere in India.

〔上〕P-51Cムスタング。同機は初期のC型で，サンアントニオ市で建設業，航空機整備業を手広くいとなんでいるエド・メーシック氏（テキサス州空軍少佐）よりC.A.F.に寄贈されたもの。かの有名なエア・レーサー，レフティ・ガードナ氏の愛機でもある。
建国200年を記念して10月7日から10日まで開かれたショーのあとで，“南部連合空軍”のジム・ヒル大佐はつぎのように語っている。「われわれの組織の銀行預金は，ショーを運営するためにほとんどなくなりかけている。本来この基金は，航空機などを保存整備するためにあるものだが，今年のショーにかかった費用は約20万ドルで，その使途の大半は航空燃料費にくわれている。これらの理由により，ハーリンゲン市当局が主催者となってくれることをせつに希望する。またこの近辺は，サウスパドレ・アイランドやメキシコに近いので，観光にも適したところである。」

〔上・下〕日本海軍機の編隊飛行。"零戦"と魚雷を抱いた"97艦攻"である。20世紀フォックス映画「トラトラトラ」撮影用にAT-6およびBT-6を改造した日本機で，テネシー州メンフィスのジェラルド・ウィークス氏が，撮影終了後20世紀フォックスより購入，C.A.F.に寄贈したもの。現在C.A.F.に所属するテキサス州ガルベストン市空港に本部をおく"ガルフコースト・ウィング"が12機を管理，整備，運航を行なって各地のエァショーにゲスト出場し，話題になっている。"97艦攻"の胴体下の魚雷は木製である。

〔訂正〕前号本欄の「"米
連邦空軍"」は「"米南部連
合空軍"」，「ハーリントン
は「ハーリンゲン」の誤り
です。

〔上〕フィリピンのルソン島リンガエン飛行場を離陸するF-5E。1945年5月17日の撮影で，台湾方面の偵察に向うところ。第5空軍第6写真偵察大隊（6th PRG）第26写真偵察中隊（26th PRS）の所属機である。後方にB-25爆撃機がうつっている。

↑ F-5 E of 26th Photo Recon Squadron taking off from Lingayen Airstrip, Luzon Island, Philippine, 17th May 1945.

↓ A F-5E comes in for a landing on Yontan Airstrip, Okinawa, after a missin over Japan, July 1945.

↑ F-5 and P-38 fighters at Ie Shima, Okinawa, June 1945.

「上」沖縄の伊江島に進出した第5空軍第6写真偵察大隊のF-5。右手の方には戦闘機型のライトニングが並んでいる。1945年7月の撮影。
「下」これも沖縄の読谷飛行場に着陸する第5空軍第6写真偵察大隊のF-5。日本本土の偵察を終えて帰投したもの。1945年7月10日の撮影。

LOCKHEED P-38 LIGHTNING

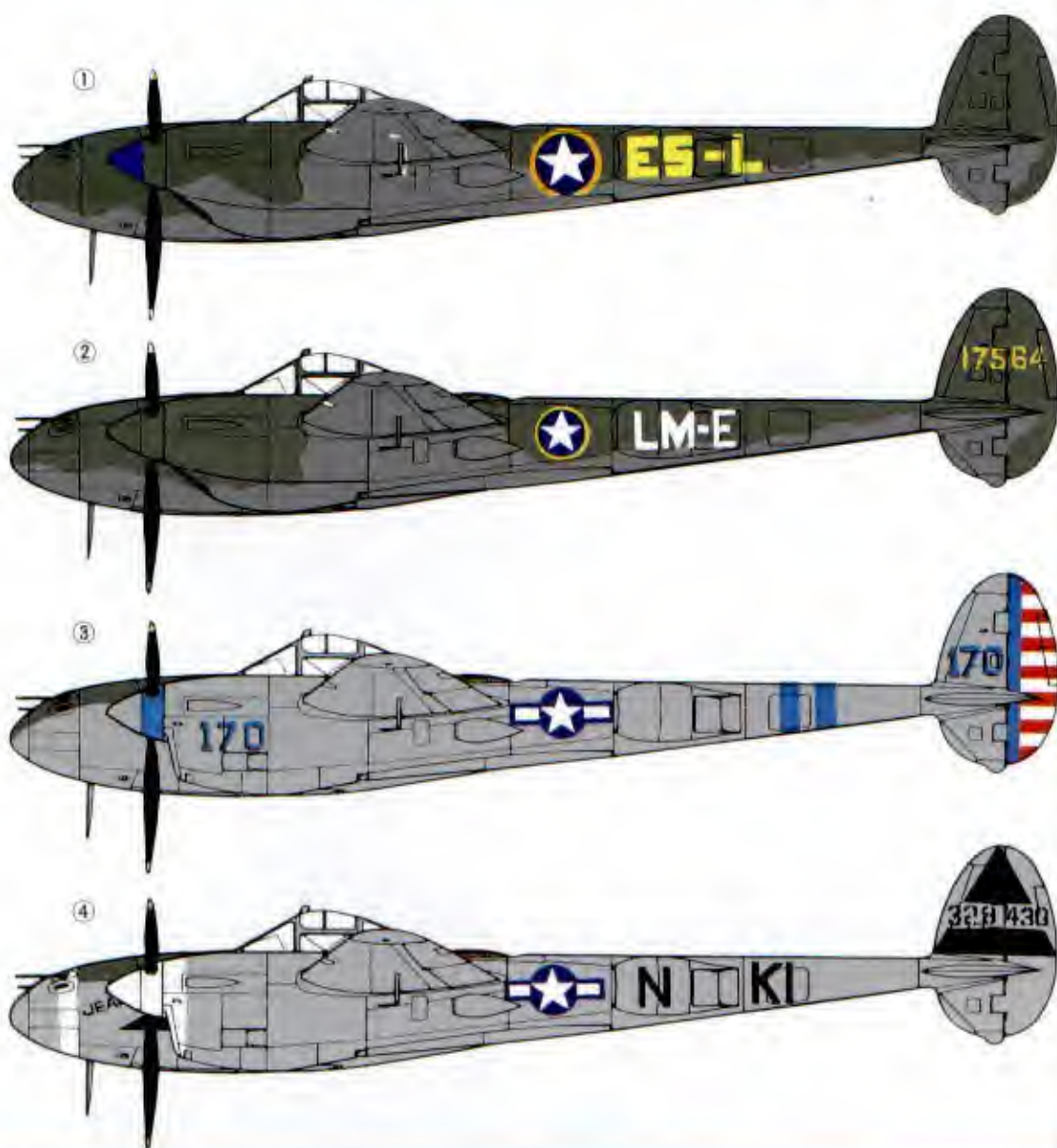
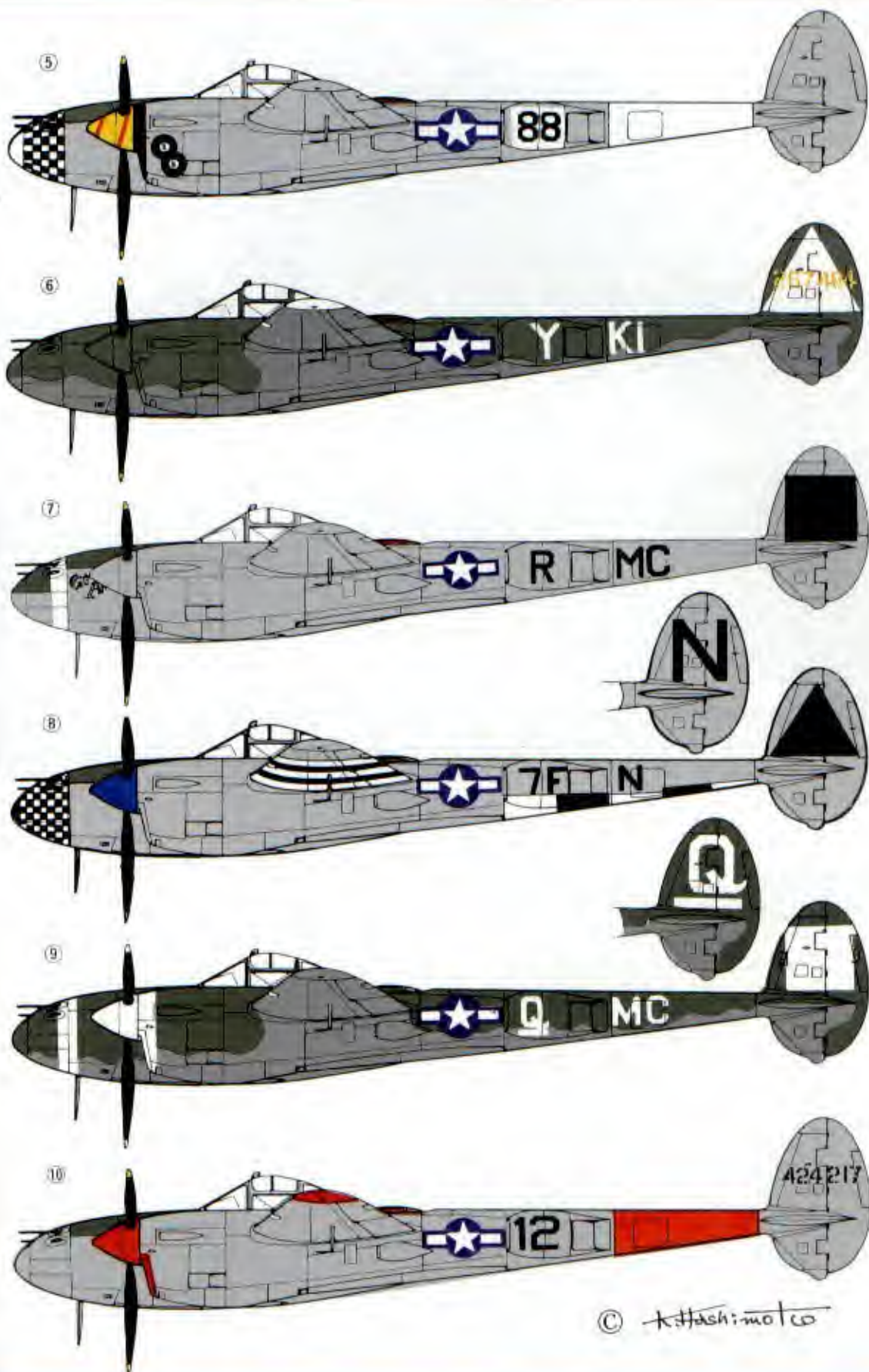
1/32 SCALE KIT

ロッキードP-38ライトニングのマーキング集

①

②

③

④

⑤
88
⑥
Y KI
⑦
R MC
N
⑧
7F N
Q
⑨
Q MC
⑩
12
424217
© K.Hashimoto

LOCKHEED P-38 LIGHTNING

ハイモデリングのための
レベル資料集

P-38 ライトニングのマーキング

レベルから新発売中の1/32スケール・キットにはP-38 Lライトニングがあり，新しくクリスマス・ツリーと呼ばれていたロケット弾ランチャーや大型増槽が追加パーツとして付属。J型を作るのはもちろんのこと，L型として武装アクセサリーをゴッソリと取付けたボリューム満点のP-38ライトニングを組立てられるようになったのはご存知だろうか。

またP-38のバリエーション・モデルとしてドループ・スヌートのキットも発売中である。あなた好みの各種マーキングをほどこして，ぞんぶんに楽しんでみよう。

（前ページ・カラー図解説）

図①　P-38F　第12空軍第14戦闘大隊所属機で，機体上面と側面がオリーブドラブ，下面はニュートラルグレイの標準塗装，スピナの前半がブルー，国籍マークは黄フチつきとなっている。

図②　P-38G　第11空軍第343戦闘大隊第54戦闘中隊所属機で，塗装は図1と同じオリーブドラブとニュートラルグレイ，国籍マークには細い黄フチがついている。

図③　P-38J　第5空軍第475戦闘大隊第433戦闘中隊のW.E.ルイス少佐機。機首上部とエンジン・ナセルの内側がアンチグレアグリーン（レベルカラー6/77%＋4/20%＋7/3%＋フラットベースの混色）のほかは全面銀。スピナやナンバー，帯などはライトブルー。

図④　P-38J　第8空軍第20戦闘大隊第55戦闘中隊所属機で，銀地に光線反射よけが，アンチグレアグリーン。機首の文字は黒で，JEANEE。胴体側面が黒ベタに塗られ，ぎっしりとスコア・マークが記入されている。

図⑤　P-38J　第15空軍第1戦闘大隊第94戦闘中隊機と推定される機体で，銀地の機体であるが，胴体後部が白。機首は白と黒のチェッカーで，スピナは黄色に赤線入りである。

図⑥　P-38J　第8空軍第20戦闘大隊第55戦闘中隊機。オリーブドラブとニュートラルグレイの塗装であるが，主翼翼端と垂直尾翼の三角マークは白。

図⑦　P-38J　第8空軍第20戦闘大隊第79戦闘中隊所属機で，銀地の機体。機首の文字は "Gentle Annie"。その下にカギ十字の撃墜マーク5個が記入されている。

図⑧　P-38J　第9空軍第370戦闘大隊第401戦闘中隊機で，銀地に白と黒のインベィジョン・ストライプスつきの機体。胴体のストライプスは下半分だけにあり，主翼は上下面に白と黒の帯がついている。

図⑨　P-38J　第8空軍第20戦闘大隊第79戦闘中隊機で，オリーブドラブとニュートラルグレイの塗装。垂直尾翼の内側は図に示すような文字がある。

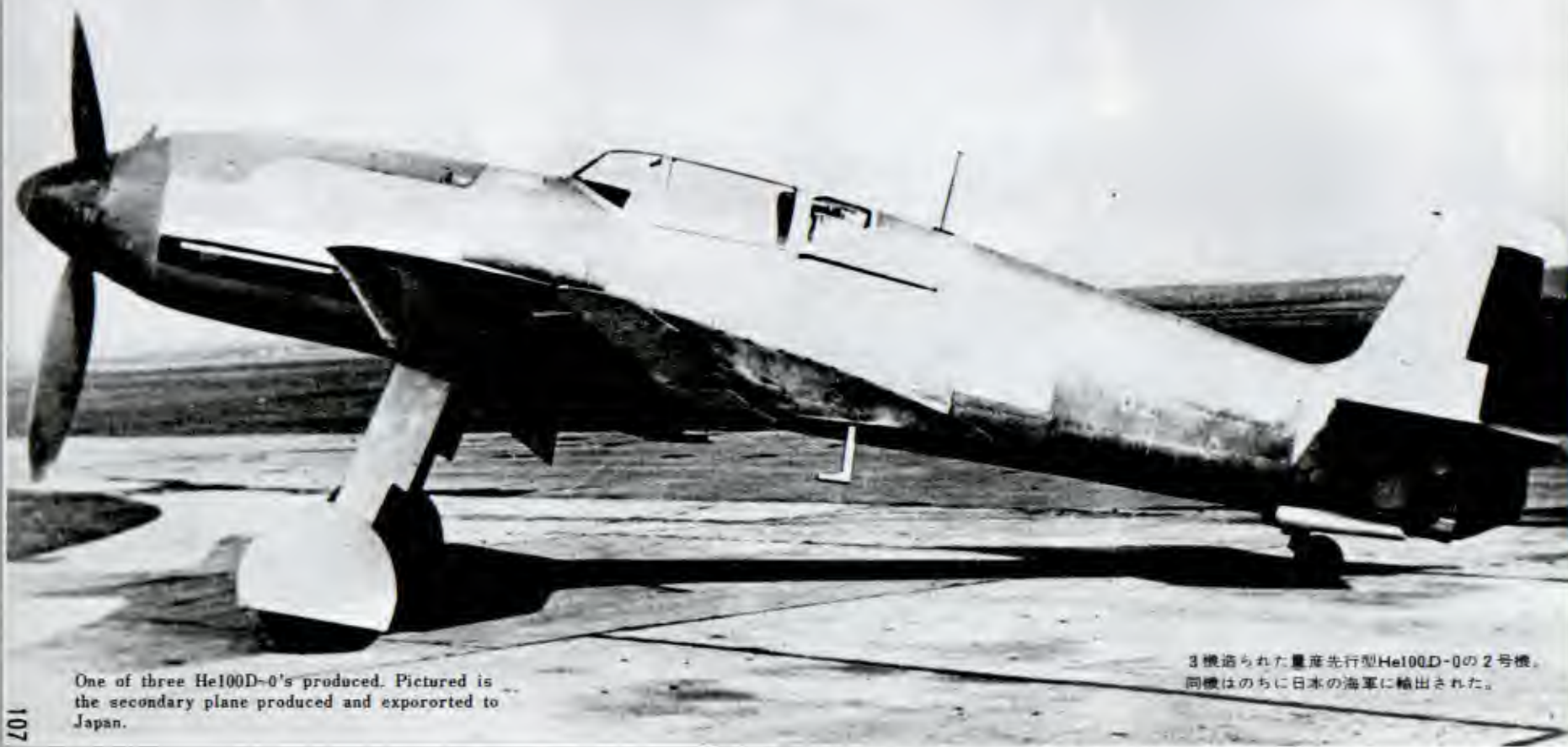
図⑩　P-38L　第15空軍第1戦闘大隊第27戦闘中隊機で，銀地であるが胴体後部や主翼翼端，スピナとラジエータ前縁が赤く塗られている。

（イラストと解説・橋本喜久男）

〔左上〕大戦中にヨーロッパ戦線で戦った第8空軍は，4個戦闘大隊がP-38ライトニングを装備しているが，そのなかには，動物や人物のマンガなど派手な塗装をしたものが多い。これもそのひとつで，G.M.アイザクソン少佐のP-38L。ドイツ機4機撃墜のマークがついている。
〔右上〕同じく第8空軍第55戦闘大隊(55th FG)第338戦闘中隊(338th FS)のP-38H。1943年12月12日，英国のパシングボーン基地にて撮影。
〔右中〕第8空軍第20戦闘大隊(20st FG)第55戦闘中隊(55th FS)所属のP-38H。
〔右下〕第9空軍のP-38」で，ロディ後フランスの基地へ前進した1機。

アメリカで現在,エア・ショーなどで飛んでいるP-38ライトニングとF4Uコルセア。
(Photo by, Charles J. Graham)

高性能の試作戦闘機　ハインケル He100

HEINKEL HE 100 FIGHTER

One of three He100D-0's produced. Pictured is the secondary plane produced and expororted to Japan.

3機造られた量産先行型He100D-0の2号機。同機はのちに日本の海軍に輸出された。

1936年，複葉の戦闘機に代るドイツ空軍の近代的な低翼単葉戦闘機の競争試作では，メッサーシュミットBf109が選ばれることになった。アラドAr80，フォッケウルフFw159，それにBf109とハインケルHe112の4機種が候補機として飛行試験が行なわれたが，He112は性能的にBf109にそん色なく，最後まで優力視されながらの敗退であった。ハインケルが，この汚名ばん回のために，He112の経験を生かしてまとめあげたのがHe100である。当初はHe112に次ぐ開発機として，He113と呼ばれていたが，のちにHe100の正式の名称が与えられている。“宿敵”Bf109をしのぐ高速の戦闘機がねらいで，原型のHe100V1～9，量産先行型のHe100D-0，量産型のHe100D-1と総計22機が造られたが，ついにドイツ空軍に採用されるにはいたらなかった。いわば悲運の試作戦闘機である。

本機については，1975年6月号でも特集しているが，ワイドカラー図とその後入手した写真を収載して，再度同機のスケッチをこころみることにしよう。

He100の原型は，V1からV3をA型，V4とV5をB型，V6からV9までをC型と呼び，そのほかに地上テスト用のV10も1機造られている。C型が戦闘機型の原型となったもので，その後量産先行型のD-0が3機，量産型のD-1が12機造られた。ここの4枚の写真は，各種の部隊マークを付けて宣伝に使われたHe100D-1のいわゆる“架空部隊”の所属機である。

He100D-1の武装は、機首のプロペラ・ハブを通す20mm MGFF機関砲1門と主翼付根に7.9mm MG17機関砲が2挺、いかにも高速迎撃機といったせんれんされた外形である。

The He100D-1, with fanciful unit markings, established a world speed record, and was much effective in the propaganda and psychological warfare, showing off the power of the Luftwaffe.

写真上・下・右上も、架空部隊のマークにして宣伝に使われたHe100D-1。実数は12機であるが、いかにも新鋭戦闘機部隊の誕生といったふん囲気である。同一の機体が各種の塗装にメーキャップして、ドイツ空軍力鼓吹の役をつとめた。しかし本機は高速飛行では実力を発揮。原型のHe100V8は、1939年3月30日、746.606km/hrの世界速度記録をたてている。この記録はまもなくメッサーシュミットMe209V1によって破られたが、イギリスその他仮想敵国に与えた衝撃は大きかった。本機はついに戦場で実力をためす機会はなかったが、宣伝・心理作戦では大きな働きをしている。

He100D-1の12機は宣伝や軍needs工場の防空などに使われたが、原型機のV1、2、4、5、6、7の6機はソ連へ、量産先行型のD-0の3機は日本へ輸出されている。

A total of twelve He100D-1's were manufactured. This was not accepted by the Luftwaffe, but used for PR purposes with "fanciful" unit markings.

写真右下は、He100D-1開発のもととなったHe112B。本機はドイツ空軍に不採用となってからは輸出にまわされた。日本でも1938年にHe112B-0の12を輸入、ハインケル112型陸上戦闘機（A7He1）としてテストしているが、結局実戦に使うことなく、練習用戦闘機または教材として利用されている。二次大戦中に本機を実戦に使ったのはルーマニア空軍で、PZL P.11やP.24戦闘機に代えてHe112Bを24機装備、ドイツ空軍と協力してソビエト空軍と闘っている。

9

1式戦闘機 隼2型乙

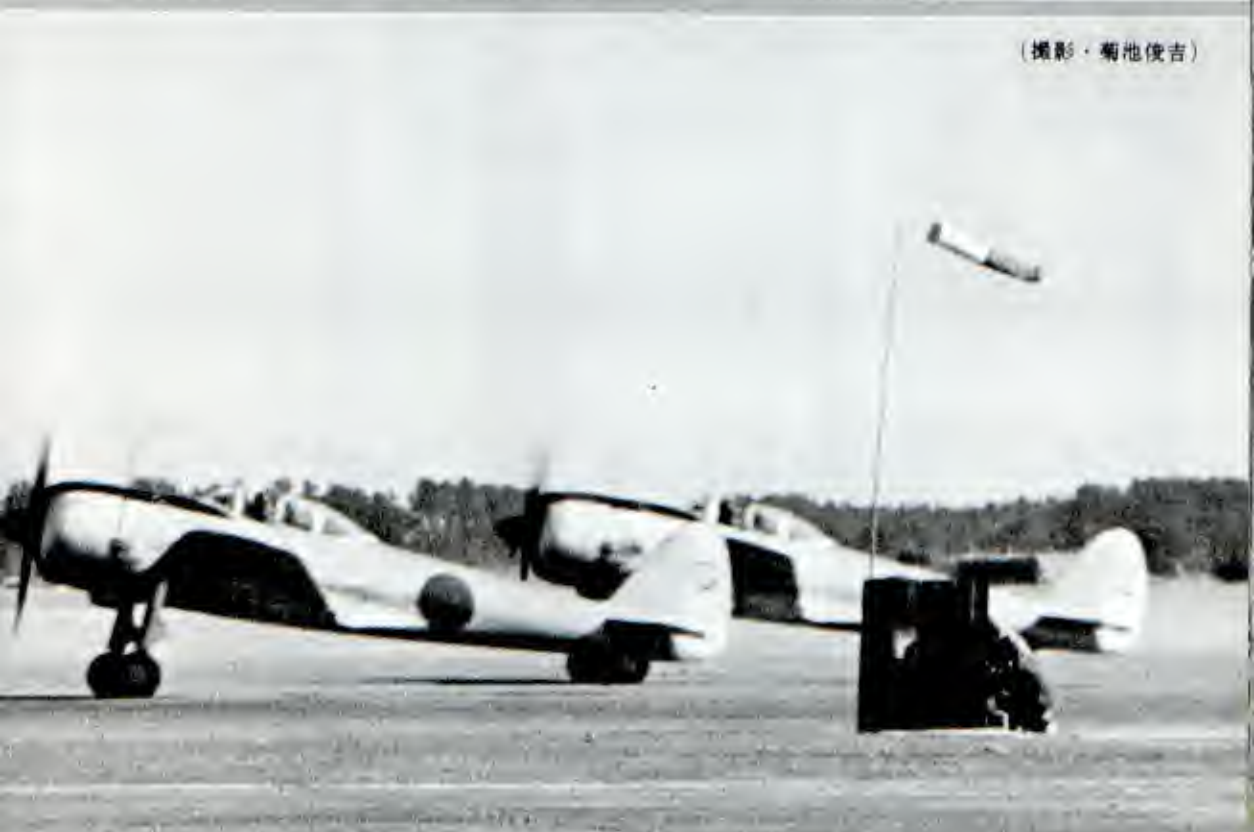
ARMY TYPE 1 FIGHTER HAYABUSA MODEL II OTSU

(右上)陸軍戦闘機搭乗員養成のメッカである明野飛行学校で訓練中の1式戦闘機隼2型。前列左側の2機は2型乙、右側の1機は2型甲である。昭和18年末ごろの撮影である。

〔下〕同じく明野飛行学校の隼2型乙。離陸滑走中のもので、先頭の迷彩の機体は尾輪が浮いている。隼の2型は270mくらいの滑走で離陸した。

➡Ki43-II-Ko & Otsu, Hayabusa fighters photographed late in 1953 at Akeno Flying School, the "Mecca" of Japanese Army pilots.

⬇Ki43-II-Otsu fighters about to take off, at Akeno Flying School. The Hayabusa took off after a 270-m run.

（撮影・菊池俊吉）

（撮影・菊池俊吉）

〔上・下〕実戦部隊に配属された１式戦闘機２型乙。隼の２型乙は、環状冷却器を廃止して、機首下方に蜂巣型滑油冷却器を付け、排気管がジェット効果をねらって後方に口を開いたものになっているのが外観上の特徴。写真下の機体は飛行第25戦隊の所属機で、南京城外飛行場で待機中。上の写真の機体は後方が丸くなっている増槽を付けているが、下の写真の機体はヒレ付きの増槽である。

⬇ Note the beehive-shaped oil cooler under the nose and the aft-mouthed exhaust tube which aimed at jet effects. This is the plane of the 25th Sentai, outskirt of Nangking, China.

The II-Otsu version was the plane most produced among the Army Type I Fighter versions. Pictured here are those of "Shimbu Special Unit," organized at Chofu Base, Tokyo, and advanced to Chiran, Kyushu, late in March 1945. The unit was composed of II-Otsu and III versions. The photo shows the arrangement of the collective exhaust tube, the characteristic point of the II-Otsu version. The white hemmed national insignia on the lower wing surfaces show that this plane was in defense assignment.

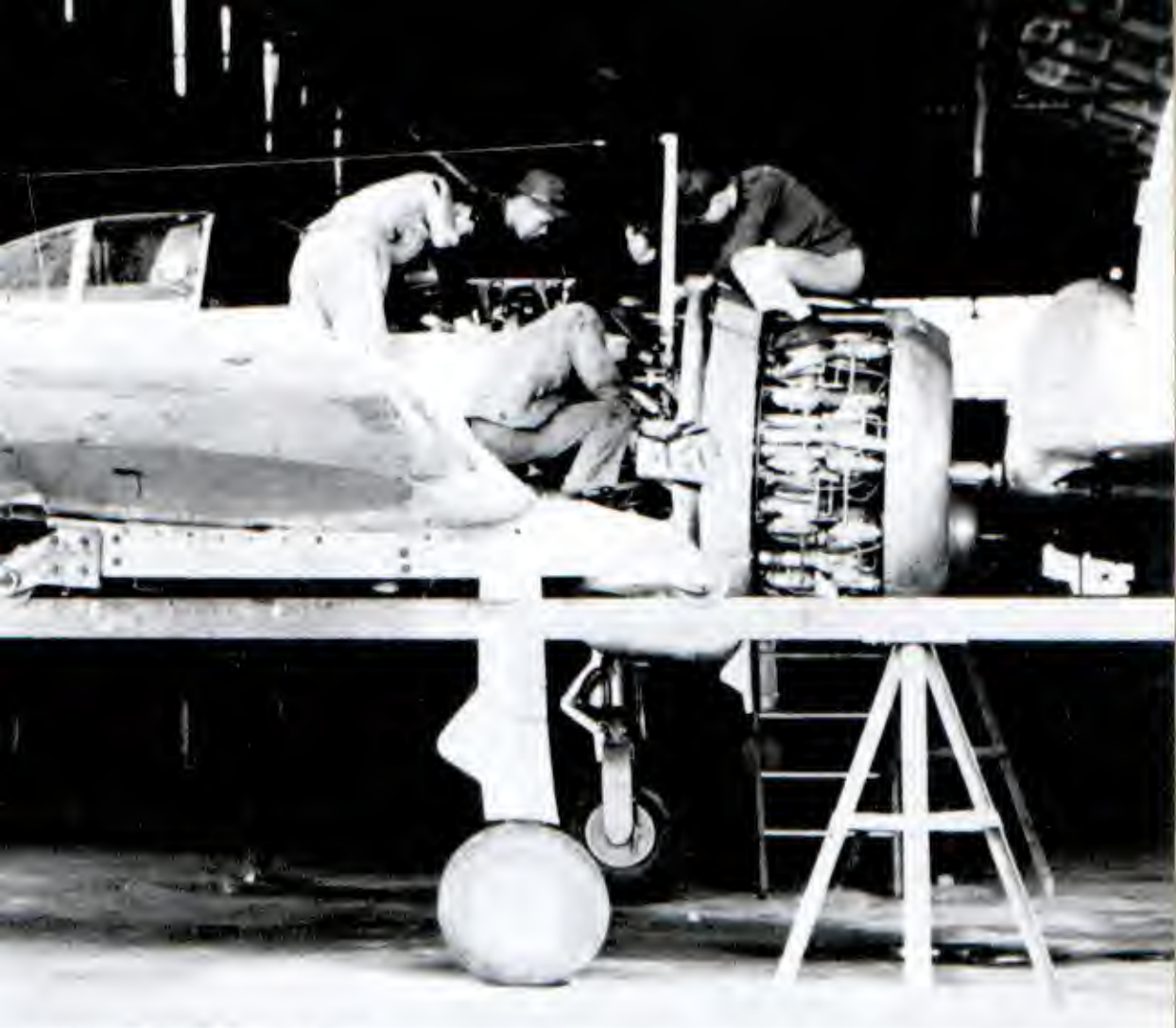
今回は1式戦闘のバリエーションのうち，いちばん多く生産された2型乙を選んで掲載した。〔上〕昭和20年3月末，九州の知覧基地へ進出するため調布基地で錬成訓練中の振武特攻隊所属機。同特攻隊は，第2型乙と3型の混成装備であった。写真では2型乙の特徴である推力式集合排気管がよくわかる。主翼下の日の丸マークは防空任務を示す白い標識付きであり，爆弾・増槽架も見える。機銃の整備のため，機首上面のパネルがはずされている。

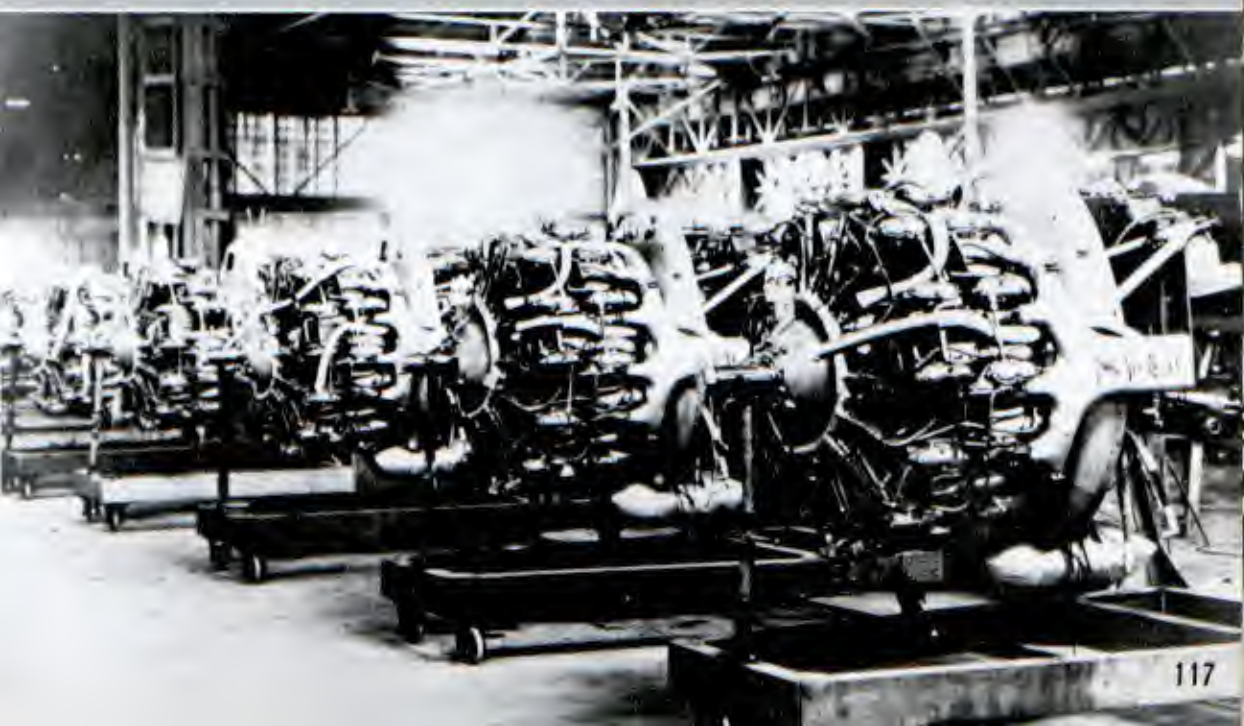
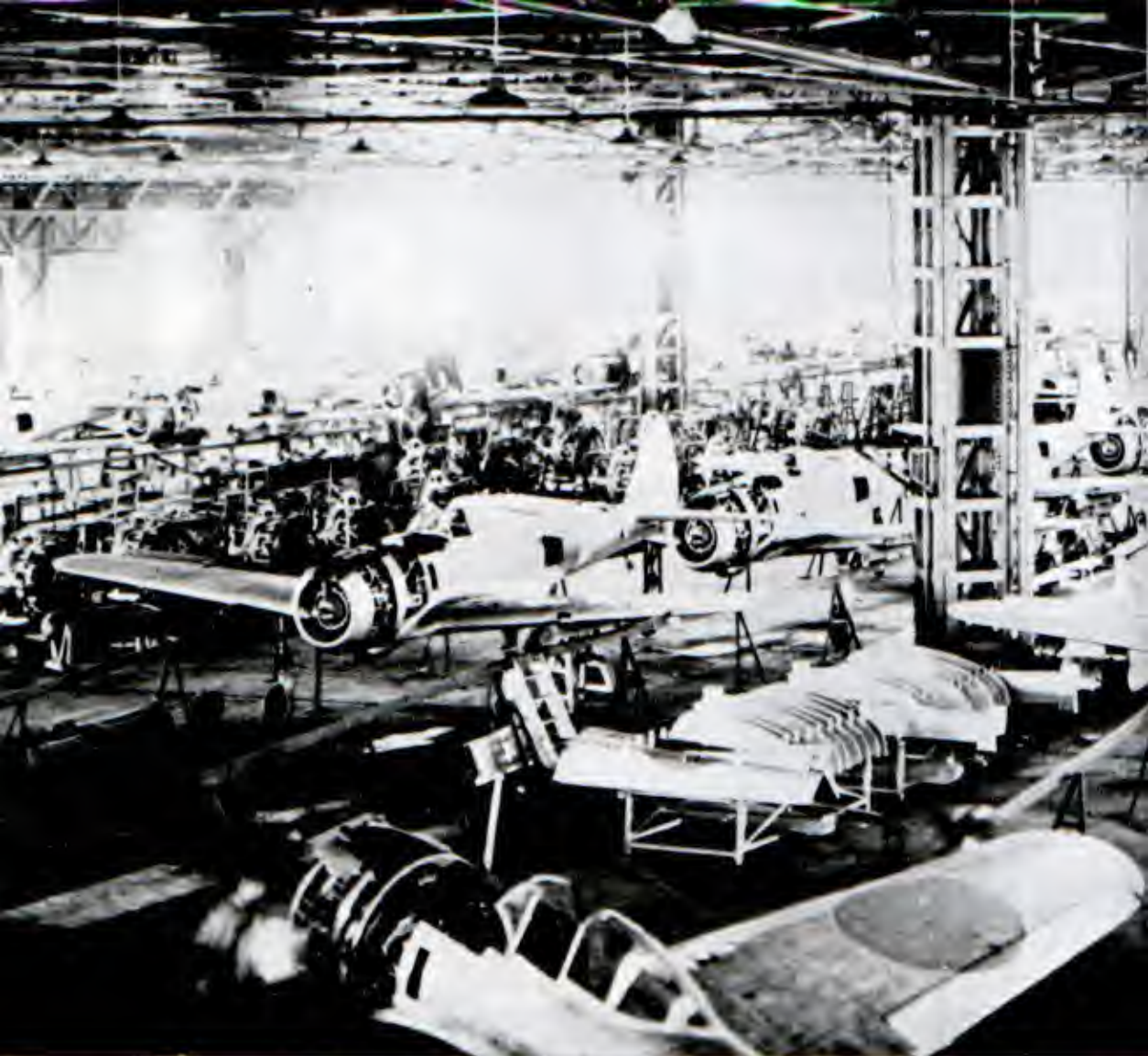
隼2型乙の生産工場

A rare snap shot at Sunagawa Works of Tachikawa Hikoki. The Hayabusa was built up not only at Nakajima but also Tachikawa.

Airframes are on the build-up line.

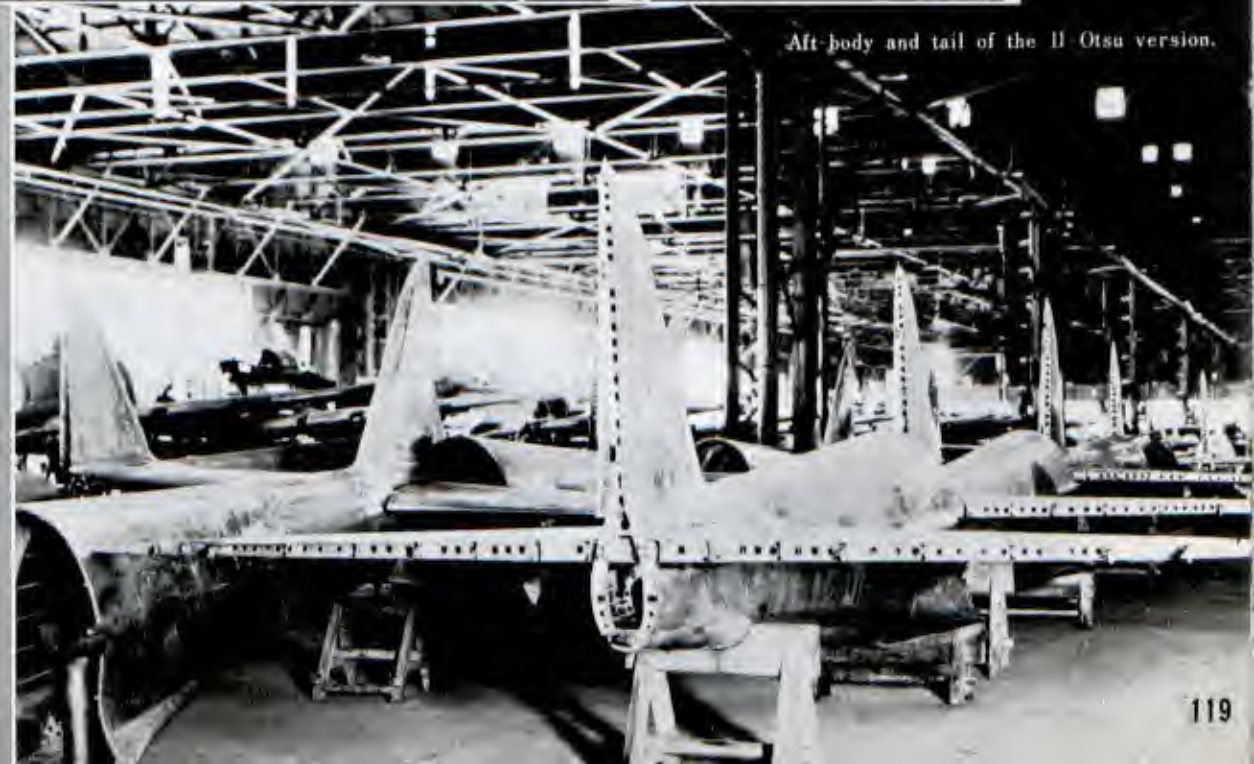
1式戦隼は、中島の各工場のほかに立川飛行機でも生産された。ここの写真は立川飛行機砂川工場で生産中の隼2型乙。当時の量産工場の模様を伝えるめずらしいスナップである。

写真上と左は完成に近づいた機体で、レールの上にのせられ、流れ作業で各部の点検が行なわれているところ。写真右は装備エンジンの空冷星型14気筒ハ115（1,150hp）。

Hayabusa II-Otsu on the build-up line.

Hayabusa's powerplant was the Ha-115 air-cooled radial 14-cylinder, 1,150hp engine.

〔下〕レール上で最終組立て中の隼2型乙。〔右〕その後部胴体と尾翼。

It's a grand sight to see many Hayabusa II Otsu planes drawn up on the production line at the 16,529m² large Tachikawa Works.

ここの写真も、立川飛行機砂川工場の隼2型乙の量産の模様。隼の量産がスタートしたのは昭和16年後半。太平洋戦争に突入して、短時日のあいだに5,750機余が量産された。立川飛行機の組立工場は約5,000坪(16,529㎡)の広さ。その敷地いっぱいに並んだ生産ラインは壮観である。

Aft-body and tail of the II Otsu version.

装備機でたどる 米第5空軍戦史 ③

P-47サンダーボルト部隊

(Photo;J.M.Nixon)

〔左〕1944年にニューギニアのポートモレスビーで撮影した第348戦闘大隊(348th FG)第341戦闘中隊(341st FS)のP-47D。第341戦闘大隊はP-47Dを装備して1943年5月からニューギニア方面で実戦に参加した。同大隊は第340、第341、第342の3個中隊から成り、P-47の機体番号は第340が1～25、第341は26～50、第342は51～70であった。写真の機体はプロペラに半分かくされて41の番号が見える。〔右〕同じくポートモレスビーの同中隊39号機。

(Photo; AAF)

(Photo; J.M.Nixon)

〔左〕編隊で進撃する第348戦闘大隊第342戦闘中隊（342nd FS）のP-47D、先頭の73号機（シリアル42-8145）は、第5空軍の第5位のエース、ニールE.キャービー中佐（22機撃墜）の乗機である。1943年夏の撮影。〔上〕ニールE.キャービー中佐と愛機。このころ同中佐は第348大隊長。

(Photo; J.M.Nixon)

(Photo;Joe Papitola)

〔上〕第58戦闘大隊（58th FG）第310戦闘中隊（310th FS）のP-47D。シリアルは42-76055で、第310中隊の中隊長の乗機である。1944年の撮影。第58機闘大隊は、レザーバックのサンダーボルト、P-47D-5と-11を装備して1944年2月から太平洋戦線に参加した。さん下の中隊は、第69、第310、第311の戦闘中隊で、すべて尾翼を写真のように白く塗り、カウリングは三色のスコードロン・カラー（69中隊－白、310中隊－黄、311中隊－ブルー）で塗りわけていた。コード・レター（1～33号機はAで69中隊、34－66号機はHで310中隊、67－99号機はVで311中隊）とシリアルは白で書かれている。

〔下〕第35戦闘大隊（35th FG）第40戦闘中隊（40th FS）のP-47D。1944年3月、ナザブ基地で撮影。第35戦闘大隊はベルP-39を装備して太平洋戦線に参加したが、1942年10月に一部はP-38Fに機種改変、翌43年11月にはさん下の全中隊がP-47Dに機種を変えて、フィリピン進攻作戦などで活躍している。この部隊の各機も垂直尾翼を白く塗り、機首カウリングには星型マークのスコードロン・カラーをつけていた。スコードロン・カラーは39中隊がブルー、40中隊は赤、41中隊は黄色で、4点または3点の星型マークは白または黒フチつきであった。写真の機体は赤で白フチマーク。

(Photo;C.R.Anderson)

Sikorsky S-43 Baby Clipper. PANAM purchased in 1936 a total of 12 S-43's to replace Consolidated Commodore. They were ured in Denmark and Norway routes.

エアラインの翼

Pan Am's Planes

パン・アメリカン航空 ②

〔上〕老朽化したコンソリデーテッド・コモドア飛行艇（1976年8月号参照）の代替機として、1936年に導入したシコルスキS-43"ベビィ・クリッパー"。パンナムでは全部で12機を購入。デンマークのフラッグ・キャリアであるDDLと共同で、1936年から37年のあいだ、ノルウエーのスタバンガーとアイスランドのレイキャビク間の路線に使った。1,500hpエンジン双発、乗客18人乗りの水陸両用機である。

〔下〕パンナムが太平洋と大西洋路線の運航用に導入したボーイング314。1,550hpエンジン4発の画期的な飛行艇で、乗客は短距離航路だと70人、サンフランシスコ－ハワイ間は30人を乗せた。全部で12機を発注。ミッドウェイ、グァム経由ホンコンへの北太平洋路線にはマーチン130に代って1939年2月22日から就航、翌40年7月12日には、ニューカレドニアの南太平洋路線への第1便が飛んだ。マーチン製飛行艇は1枚尾翼、シコルスキ製は2枚尾翼だが、本機は3枚尾翼である。

〔シコルスキS-43データ〕エンジン：P&Wワスプ（750hp）×2、全幅26.21m、全長15.85m、全備重量8,845kg、乗客数18、巡航速度241km/h、巡高高度1,219m、最大航続距離805km。〔ボーイング314データ〕エンジン：ライトサイクロン（1,550hp）×4、全幅46.33m、全長32.30m、全備重量38,319kg、乗客数70、巡航速度233km/h、巡航高度1,524m、最大航続距離3,862km。

PANAM introduced Boeing 314 transports in 1939 and 1940for the Pacific and Atlantic routes.

軍用ジェット機の先輩たち

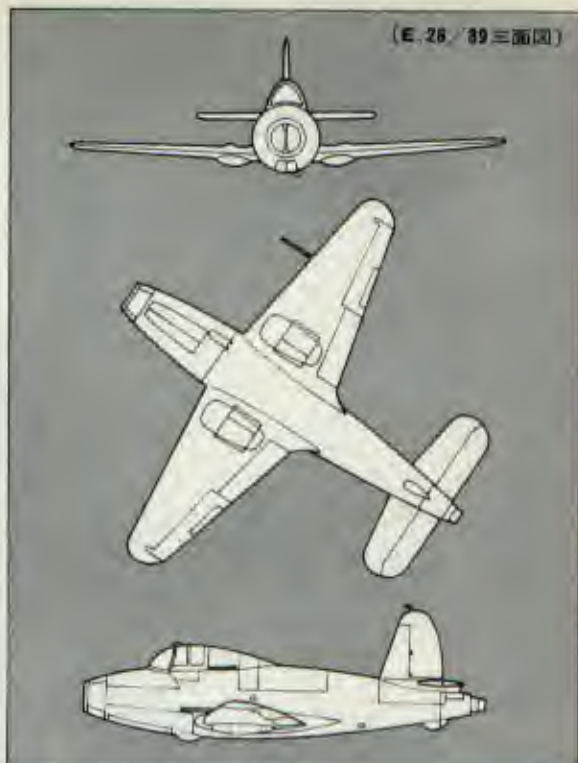
Outriders of military jet planes.　　IN BRITAIN

GLOSTER E.28/39
グロスター E.28/39

グロスターE.28／39は、イギリスで飛んだ最初のジェット機である。新しい高々度迎撃機を開発するという英航空省の仕様E.28／39にもとずいて、1939年9月に設計が開始されたが、もともと本機は、フランク・ホイットレー設計のW.1ガスタービン・エンジンの実験機という性格のものであった。W.1エンジ

イギリス篇 ①

The first Gloster E. 28/39 in a test flight at Farnborough RAF base.

ンはパワージェット社で製作されることになっており、これにジョージ・カーター設計の機体を組合わせてグロスター社で製作することになったのが本機で、1号機（W4041）は1941年春に完成、5月15日に初飛行、1943年3月1日には2号機（W4046）も初飛行している。

〔左上〕離陸するE.28／39の1号機。写真はのちにファーンボロの英空軍基地に移されてテストされたときのもので、水平尾翼にフィンを追加装備し、胴体下にはカメラを積んでいる。E.28／39は、全金属低翼単葉、円形断面胴体のすっきりした外形で、エンジンは操縦席後方に搭載した。機首の吸気口からの吸気は、操縦席の両側を通るダクトでエンジンへ導かれた。〔左下〕同じくE.28／39の1号機。羽布張りのラダー、小さな口径のジェット・パイプが目立つ。〔下〕E.28／39の吸気口。同機はW.1エンジンにつづいて、推力をアップしたW.1A、W.2／500などに換装してのテストも行なっている。

Air-intake of the W.1A power-up version. Tests were made with W.1, W.1A and W.2/500 engines.